

7. 当センターにおけるHBOの中止症例について

栗原真由美*¹⁾ 藤内由美*¹⁾ 大久保 淳*¹⁾
 杉原英司*¹⁾ 鈴木紀江*¹⁾ 久野木 忠*¹⁾
 畑谷重人*¹⁾ 池田一美*²⁾ 池田寿昭*²⁾
 工藤龍彦*¹⁾

{ *¹⁾ 東京医科大学八王子医療センター臨床工学部
 *²⁾ 同 救命救急部 }

【目的】 当センターにおけるHBOの予定回数に未到達な中止症例および治療中に中止した症例について検討したので報告する。

【対象および方法】 96年4月より99年3月の3年間HBOを施行した256例(男性138例, 女性118例, 平均年齢58.3歳), HBO総治療回数1725回のうち予定回数に未到達な中止症例46例および治療途中で中止した17回についてそれぞれ原因を分析した。

【結果】 予定回数に未到達な中止症例の内訳は, ①脳塞栓, 開頭術による意識障害, 脳浮腫は20例, ②網膜動脈閉塞症は9例, ③難治性潰瘍を伴う末梢循環障害, ④重症の低酸素性脳機能障害はそれぞれ5例, ⑤突発性難聴は3例, その他4例であった。中止理由は全身状態悪化が15例と最も多く, 次いで患者希望が4例と多く, その他は個々の理由によるものであった。治療途中で中止した回数は①の症例では9回, ②, ③の症例ではそれぞれ3回, ④の症例では1回, そして重症の急性脊髄障害の症例で1回であった。中止理由は循環動態不安定・胸痛, 高血圧が各々2回であり, クランプ出現が1回であった。その他は尿意出現, 疼痛増強等の患者の精神的なものが原因であった。

【結語】 予定回数に未到達な中止症例は重篤な状態の患者の症状悪化が多く, 治療途中で中止した症例の理由は大半が特殊な環境下におかれるという精神的な負担によるものであり, 今後, それらについて検討が必要であると考えられた。

8. 小児(15才以下)に対する高気圧酸素療法

有川和宏*¹⁾ 堂籠 博*¹⁾ 久保博明*¹⁾
 高松英夫*¹⁾ 川島清美*²⁾

{ *¹⁾ 鹿児島大学附属病院救急部
 *²⁾ 鹿児島大学歯学部第1口腔外科 }

我々の施設での高気圧酸素療法(HBO)の患者数は年間300人程度におよぶ。今回治療患者総数1500例に達した時点で小児の治療患者数とその内訳の特徴を探るべく検討を加えた。乳幼児では母親, あるいは主治医同伴を原則とした。15才以下の小児例は全体の6.4%の96名で, 年齢は2ヶ月から15才, 平均8.7才であった。小児群では意識障害に対する適応が86例中25例で29.1%と最も高率で次に高率なイレウス群の9.8%を大きく凌駕していた。意識障害の治療成績を16才以上の大人群と比較すると有効(JCSで2段階以上の改善をみたもの)率は大人群の55.7%に対し小児群は76.0%と有意に高く, 本法をより積極的に導入すべきと考えられた。しかし意識が完全に寛解したexcellent群は大人群に多く, 有効例中の67.6%を占めていたのに対し, 小児では36.8%に留まっていた。大人群の意識障害の原因が多様であったのに対し, 小児群では心停止後の蘇生例が多かったのがその主因と考えられた。小児では意識障害に限らず治療前, 我々が予測もし得なかった好結果に遭遇したり, また長期のHBOで回復がみられる場合があり, 治療域が広い事実を念頭に置くべきと考えられた。